

# 地質のアウトリーチ活動についての回想

利光 誠一<sup>1)</sup>

2020年3月末で産総研地質調査総合センター（GSJ）での定年を迎えましたので、この機会に、入所以来お世話になりましたGSJの皆様へ感謝の意を込めて、少しばかり思い出を綴ってみたいと思います。GSJでの30年間では、専門分野である化石の研究、地質図作成の調査研究などがありますが、ここでは、私にとってもう一つの柱でもありました地質のアウトリーチ活動についてふりかえってみたいと思います。

私は1990年に工業技術院地質調査所に入所し、地質標本館に配属されました。この年はちょうど地質標本館の開館10周年の年でした。地質標本館では、前から開館10周年を記念するイベントを計画しており、私自身も入所と同時に10周年記念イベントの成功に向けて準備に取り組みました。このイベントはGSJ全体の協力を得ての比較的大きな行事でした。具体的には8月19日の開館記念日（日曜日で、当時は休館日）の翌日に2つの特別講演会「地下からの手紙解読—宝石と鉱物」（講師：東北大学名誉教授・元所員 砂川一郎氏）・「恐竜時代と地球環境—その進化と絶滅」（講師：国立科学博物館地学研究部長 小島郁生氏）と祝賀会が行われ、21日（火）～24日（金）に2つの特別展「宝石と貴石」・「三葉虫の世界」が実施されました。さらに、26日（日）に野外実習「川原の石と砂金探し」（会場：茨城県大子町の久慈川）、27日（月）に地質標本館内で岩石・鉱物・化石相談会が開催されました（神谷，1991）。

それ以降、地質標本館の年2回以上の特別展、花室川でのナウマンゾウの化石探索会（1999年まで）、1991年から始まった「化石クリーニング」体験学習、1996年から始まったつくば市主催の「つくば科学フェスティバル」へのブース出展、1997年から始まった地質調査所と日本地質学会共催の「地質情報展」にも参加してきました。そして地質情報展で「化石レプリカ作成体験コーナー」のブース出展したノウハウを生かして、1998年から地質標本館でも「化石レプリカ作成体験学習」のイベントを開始しました。これらの活動に携わりながら、子供をはじめとした一般の方々の地質リテラシー向上に向けたアウトリーチの経験を積み重ねてきました。

2001年の独立行政法人化で工業技術院の16研究所が統合され産総研が発足しました。産総研では、研究所の成果の社会還元としてのアウトリーチの重要性の認識が深まってきました。その中で、地質分野の多くは社会の中で重要な意味を持つにもかかわらず地味な存在であるため、GSJとしても自分たちの組織・活動、そして「地質」の社会における存在をアピールすることが必要と考え、国内の地質関連の学協会や大学などにも働きかけてアウトリーチ活動が年々盛んになってきました。この流れの中で、2008年は特筆すべき年と言えるのではないかと思います。2008年より、5月10日が『地質の日』に制定され、これを記念して第1回「地質の日」とその関連行事を各地の博物館等で開催する記念事業が実施されました（中尾ほか，2009）。GSJでも、経済産業省本館ロビーでのパネル展示、地質標本館および研究本館（7-1棟）ロビーでの関連イベントとつくば市主催の「つくばフェスティバル」へのブース出展等を行いました。また、GSJが事務局となり日本ジオパーク委員会の設置と日本ジオパーク認定が始まり（この年は7地域）、世界ジオパーク認定のための候補推薦（同，3地域）の決定がなされました。このほか、GSJの直接的な関わりは記されていませんが、地質学関連の学会が中心となり世界地学オリンピック（フィリピン大会）への参加（そのための高校生の代表選定事業も実施）などがありました。これらの行事の多くはその後にも継続されており、GSJと国内の地質関連学界が協働して「地質」の盛り上げを図っています。

私自身は、産総研発足後20年の3分の2の期間を地球科学情報研究部門・地質情報研究部門、3分の1の期間を地質標本館・地質情報基盤センターに所属しながら、上記の様々な活動にいろいろな形で関わってきました。中でも2008年の第1回「地質の日」に関連した企画として「化石チョコレート」の開発に取り組んだことは、私にとって「地質」のアウトリーチ活動の視野を広げる機会となったと考えています。「化石チョコレート」は、私自身が携わってきた「化石レプリカ作成体験イベント」が発端の一つとなっています。ここに、地質情報展の立ち上げからイニシアティブをとってきた斎藤 眞氏（斎藤，1998，2001）

1) 産総研 地質調査総合センター 研究戦略部

キーワード：地質標本館、アウトリーチ活動、地質の日、化石チョコレート



第1図 「化石チョコレート」の展示風景  
2017年から2階休憩スペース前に移動して展示されている。

の「レプリカ材料としてチョコレートを用いては？」というアイデアが重なり、彼自身の熱意が周囲の賛同者を巻き込んで実現したものです(利光ほか, 2009)。それまで私たちは、地質標本館やGSJの職員との連携で様々な体験学習プログラムなどを考え、実践してきました。「化石チョコレート」開発の企画も、当初は同様にGSJ内の関係者だけで商品化まで進めようと考えていましたが、具体的な商品化を模索するところ(2006年頃)で暗礁に乗り上げてしまいました。このため、しばらく休止状態となりましたが、2007年2月に関係者の一人が電車通勤の中で知人の産総研内の有機化学の研究者に話をしたところから話が再開しました。ここから国内の油脂の研究会仲間を経て、チョコレートの製造業の技術者に話が伝わり、そこからデザイン会社、販売会社へと急展開し、化石チョコレートの商品化が実現したのでした(利光ほか, 2009)。このことは、化石を基にした地質情報の商品化を異業種の民間企業と連携しながら実現できた事例として、今でも思い出深いものとなっています。

「化石チョコレート」は、地球科学系の博物館や類似の展示施設に訪れた方に、見学を通して地球のダイナミックな姿を学習していただき、地球の歴史・活動のストーリーをお土産に持ち帰っていただくという理念で開発し、基本的にはそのような場所に限定されて今も販売されています。2008年の発売当初に、東京上野公園界隈を扱ったテレビ番組の中で、国立科学博物館のミュージアムショップで化石チョコレートが販売されていることが取り上げられたことから、上野の国立科学博物館のお土産という印象が広がった時期もありましたが、嬉しい勘違いということで私

たち関係者一同は微笑ましく見守っておりました。また、「地質標本館が監修したチョコレート素材のレプリカ」という旨のウェブニュースが掲載された際に、インターネット上の掲示板等に「さすが、化石レプリカの地質標本館」と書き込まれたこともありました。これは、地質標本館の日頃の活動をご理解いただいていることとして、関係者としてありがたく思った次第です。当地質標本館では、化石チョコレートの展示はしていますが(第1図)、残念ながら館内のショップで販売できないため、来館の際に「化石チョコレート」が欲しいといわれる方々にはご不便をおかけしています。なお、産総研構内の職員および来訪者向けの売店で平日のみ販売していることから、購入を希望される来館者の方にはそちらをご案内しています。産総研の地質分野以外の職員の中にも、出張時に産総研土産として活用していただいている方もいるようで、産総研内に広く(?)「化石チョコレート」の存在が認識されていることも嬉しく思っています。

「地質」は、社会の中で地味な分野でもありますが、近年、地形・地質に関心のある有名人の方もちらほらというように、特にNHKの番組「プラタモリ」は、出演しているタモリさんのキャラクターもあってお茶の間の人気番組となっています。ちなみにGSJからも何名かの研究者が案内人として複数回出演しており、また出演のない放送回も含めてGSJとして地質に関する情報提供をするなど、この番組には様々な協力がなされています。今後も番組としていろいろなところを訪れて、その土地々々の地形・地質の面白さをお茶の間の視聴者に届けていただけることと期待しています。一方、今年(2020年)になり、テレビアニメ「恋する小惑星(アステロイド)」で地質がテーマとして取り上げられ、その中で登場人物が部活動の夏休みの合宿研修で地質標本館を見学するといったストーリーで館内展示も紹介されたことで、アニメファンの方が多く地質標本館の見学に訪れるようになったようです(森田, 2020)。余談ですが、地質標本館でも2017年からホームページにキッズページを加えて「まんがで学ぼう!地質」のページを開設しています(<https://www.gsj.jp/Muse/kids/index.html> 閲覧日: 2020年5月11日)。これはアニメーションではありませんが、大人でも楽しみながら地質を学べる内容になっていますので、専門外の方にも地質の入門編として見ていただくと幸いです。話は逸れてしまいましたが、上記のようなテレビなどのメディアを通じたアピールは、今後もさらに重要になってくるのだと思いますし、将来、メディアなどと連携をしていく意義がより高くなっていくと思われるので、今後も自分たちの伝えたいメッセージをしつ



第2図 ウィルス感染拡大の影響による外出自粛要請の続く中で奨励されるようになったウェブ利用のデジタルコンテンツの一例（2020年「地質の日」のデジタルコンテンツのウェブサイト <https://www.gsj.jp/geologyday/2020/homestudy.html> 閲覧日：2020年5月11日）

かりと発信しながら連携相手と協調して、地質のアピールをしていただければと思っています。

せっかくの2020年初頭のアニメ人気も、2月以降に社会問題化した新型コロナウイルス感染拡大の影響でその月末から地質標本館は長期にわたる臨時休館を余儀なくされ、残念ながらブームに水を差された形となってしまいました。このウィルス感染拡大予防のため、狭い空間に人が集まり他者との接触をすることや、不要不急の外出を自粛する期間が長くなったため、いわゆるイベント等を全国的に当面の間開催できなくなりました。このような期間に各自が自宅で過ごせるようにインターネットを介したデジタルコンテンツ利用やオンラインによる会議・会話が奨励されるようになり、各地の博物館や様々な機関・団体がインターネット上にコンテンツ提供を始めました(第2図)。いずれウィルス感染拡大による社会不安も収まり、外出しての諸々の活動も再開されるものと思いますが、これを機に、GSJをはじめとした研究機関、大学や博物館などのアウトリーチ活動に関してもインターネットを介したデジタルコンテンツ利用での運用は今後ますます進展していくことと思います。一方で、これまでの人と人が直接に接して相互にコミュニケーションをとる従来型のアウトリーチ活動の意義は薄れるものではないでしょう。

最後に、今年(2020年)は地質標本館開館40周年の年に当たります。そして、2年後にはGSJ創立140周年を迎えます。今後の地質標本館およびGSJ、そして地質分野

全体の発展を祈っております。私自身も定年後の新たな現所属先で、この後もしばらく地質標本館を含むGSJ全体のアウトリーチ活動に微力ながら協力していきたいと思っています。

## 文 献

- 神谷雅晴(1991)地質標本館開館10周年記念行事を実施して。地質ニュース, no. 442, 37-40.
- 森田澄人(2020)地質標本館は「恋アス」を応援しています。日本地質学会 News, 23, no. 2, 7-7.
- 中尾征三・斎藤 眞・七山 太・高橋裕平・森尻理恵・原 英俊・中川 充(2009)「地質の日」元年：ことはじめ。地質ニュース, no. 653, 8-11.
- 斎藤 眞(1998)九州地質情報展「知っていますかあなたの大地—地質学が探る九州島—」報告。地質ニュース, no. 522, 28-31.
- 斎藤 眞(2001)地質情報展—地質学の普及をめざした地質調査所の試み—。地学教育, 54, 47-59.
- 利光誠一・斎藤 眞・森尻理恵・青木正博・古谷美智明(2009)地質の日記念グッズ「化石チョコレート」。地質ニュース, no. 653, 46-49.

TOSHIMITSU Seiichi (2020) Reminiscence of outreach activities on geology.

(受付：2020年5月29日)